

会議記録書	
会議名	第43回草津市図書館協議会
日時	令和7年3月11日(火) 10:15～11:45
場所	草津市立図書館 2階 会議室
出席者	岸本会長、高山副会長、堀江委員、吉田委員、田邊委員、駒村委員、中瀬委員、新谷委員、松村委員、事務局(二井館長、加藤副館長、大西副館長、岸本主任)
傍聴者数	1名
記録作成者	図書館 岸本

## 1. 開会挨拶

みなさんおはようございます。

本日は、3月、年度末の何かとお忙しい中、お足元の悪い中、多数ご参加いただきましてありがとうございます。

また、日頃から、草津市行政ならびに図書館運営にご理解ご協力を賜りありがとうございます。

さて、館長になり三年目も終わろうとしているところですが、図書館の政策・事業を振り返ってみますと、令和4年度の南草津図書館20周年、令和5年度の草津市立図書館40周年ハード、ソフト面での様々な事業に取り組んでまいりました。

その流れを受けて、今年度は「草津市読書のまち推進計画」を令和7年7月策定予定で取り組んでいるところでございます。

本日の協議会におきましては、本計画のご説明と、今年の1月に実施いたしました令和6年度図書館利用者アンケートについての速報版の報告、また新年度予算および事業について報告させていただく予定であります。委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

まことに簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。

## 2. 議題

### (1) 令和6年度図書館利用アンケートについて(資料1)

- ・資料説明。
- ・アンケート回答率は例年の回答率と比較するとおおむね変化がないが、昨年度と比べ低下した。昨年度は図書館(本館)の40周年であり、様々なイベントを開催したことで、利用者の図書館への意識が高まったことが昨年度の回答率が高かった理由であると考えられる。
- ・WEB回答率が昨年度(38.1%)から今年度(47.6%)と上昇した。
- ・レファレンスサービス認知度・満足度と児童サービス認知度・満足度については、今年度から調査方法を変更した。
- ・今年度から本館、南館それぞれの満足度を数値化した。開館時間、休館日、視聴覚資料、館内の読書環境、利用者のマナー、WEB等での情報提供・検索方法については、本館と南館で満足度に差が生じており、満足度は南館の方が高い。

- ・開館日と休館日、館内の読書環境については、自由記述欄にも多くの意見が寄せられた。

#### 【委員意見】

- ・↓↑を見れば、満足度の推移がわかる。今後も満足度の向上を目指してほしい。
- ・図書館アンケートの満足度が高いことは喜ばしい。図書館利用者の様子も好ましい状況である。

#### (2) 読書のまち推進計画の策定について（資料2-2、資料2-3）

- ・資料説明。
- ・草津市読書のまち推進計画（案）は5年間計画である。初年度はしくみづくりが中心となるが、徐々に本と触れ合う機会を増やしていく。
- ・委員の皆様には草津市読書のまち推進計画について今後ご意見いただきたい。

#### 【委員意見】

- ・小学校には移動図書館あおばな号が巡回している。周囲からの評判がとてもいい。こども園や幼稚園にもぜひ来て欲しい。
- 草津市には就学前施設が約80施設あるため、全施設を巡回するのは予算確保や人員確保が難しく、実現が難しい。図書館では現在、就学前施設用の貸出資料（あおばなセット）がある。就学前施設を対象に3か月に1度の配本を検討しており、今後実施していく予定である。
- ・中学生から成人の年齢層を対象にした働きかけはあるのか。学校の意欲的な協力が必要になるので、継続して働きかけてほしい。いくつかの高校では学校図書館にある本を生徒だけでなく家族にも貸出していた。読書をする人から読書をしていない人へ読書活動を波及させることができる本を提供する場所が必要である
- 現在、中学校の司書配置の強化を図っている。図書館の司書に学校を含め外部と接する機会を増やしていく。昨年度実施した中高生の力を借りたイベント（声優朗読劇）が大変好評であった。今後も高校連携交流会等中高生と積極的にかかわりを持って、読書活動を推進するだけでなく、中高生の力を借りて市民へ読書活動の推進に取り組みたい。
- ・読書環境の変化
- 図書館で扱う電子書籍は一般的に普及しているようなものではない。著作権保護のため、定価の1.5～3倍程度の費用がかかる上、利用制限が厳しい（利用期限が2年間とするか、貸出回数が50回とするか）。コンテンツ数も限られている。図書館の資料費を確保しつつ、電子書籍の資料費を確保するのが難しい。現時点において、紙の本と比べ電子書籍の優先度は低い。
- ・日本の電子書籍は大部分が漫画（コミック）である。一般的に図書館で取り扱っている書籍については電子書籍で読めない。
- 図書館では1種類の本に複本がある。電子書籍1つの費用で、同じ紙の本が2～3冊購入できる。1つしかない電子書籍の予約を待つより、複本が数冊ある本の予約を待つ方が、手元に早く届く。

(3) 令和7年度予算および事業について(資料2-4、資料3)

- ・資料説明。
- ・黄色の星がついているが大きく変わった項目である。

【委員意見】

- ・読書スペースとして、キラリエくさつの待合スペースなどの活用を考えて欲しい。
- ・子ども食堂への配本のおかげで、こどもの読書の機会が増えている。
- ・学校司書・図書館ボランティアは学校にとって大変ありがたい存在である。生徒からの評判もいい。大変ありがたい存在なので、なくさないで欲しい。
- ・本と触れ合うことができる場所を市内にもっと増やしてほしい。
- 移動図書館あおばな号で14小学校を巡回している。今後は市内書店と連携して、書店も潤い、図書館も盛り上がるような好循環を目指していきたい。
- ・予算が不十分に思う。行政だけの自助努力では計画実現は難しい。私立大学では、予算が必要となった場合には、まず寄付を考える。また、大学生と一緒に協力して実現に向けて活動する。図書館も中高生や利用者を巻き込んで取り組んで欲しい。大学側からも図書館に協力できることはたくさんある。
- ・草津市全体で市民を巻き込んで、読書活動の推進を図ってほしい。
- ・図書館には多くの団体や関係者が関わっている。図書館の動向や状況は市長、教育長、館長等の組織の長の意識に左右される。草津市は県内でも評判がいいと他市町の図書館関係者から聞く。委員として今後も支援していきたい。
- ・学生の頃は試験勉強や受験で、本を読む時間がなかった。現在の学生もそうだと思うが、少しでも本と触れ合う機会が増えれば、隙間時間に読書をする選択肢ができるかもしれない。

3. 意見交換・質疑

- ・特になし。

4. その他連絡事項

- ・特になし。